

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

第 1 回本会議

令和 8 年 5 月 20 日（水）

（議事次第）

議題

- ・ 議長団選挙（副議長選挙）

タイムテーブル

当日の時刻	日程
18:45	再開
18:45~18:46	連絡
18:46~19:38	質疑応答
19:38~19:42	最終演説
19:42~19:54	投票
19:54~20:15	決選投票 1
20:15~20:33	決選投票 2
20:33	閉会

出席者

学類等代表者 56 名

資料一覧

議題 「議長団選挙」

- ・ 令和 8 年度議長団選挙について

…… P26001-00

- ・ 令和 8 年度議長団選挙立候補者一覧

…… P26001-01

- ・ 【改訂版】令和 8 年度議長団選挙実施要領

…… P26001-02

- ・ 学長決定「筑波大学の学生組織等について」

…… P26001-03

- ・ 副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」

…… P26001-04

- ・ 「全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議について」

…… P26001-05

以下、議事録

再開

○吉川 栞（令和 7 年度議長）

第 1 回本会議を再開する。質疑応答に移る前に、事前に資料として配付していた実施要項に変更があるため、まずこの説明を行う。事前の実施要項では「選挙人 1 名につき候補者 2 名に投票する」としていたが、この方法は規則に抵触することが判明したため、本日は「選挙人 1 名につき候補者 1 名に投票する」こととする。そのため、候補者 2 名に○印を記入したものは無効票とする。変更後の実施要項は、本会議チャンネルの「第 1 回本会議 第 2 日程」スレッドに掲載している。

これに伴い、すべての質問への回答が終了した後、各候補者が再度 1 分以内で演説を行ったうえで投票に移る。事前に受け付けた質問を、受付順に取り扱う。副議長候補者は前へ願います。

質疑応答

○平田 晶美（看護学類）

藤井に質問する。SNS の双方向の運用とは、リプライや DM を返信するという認識で相違ない

か。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

おおむねその理解で相違ないが、基本的には広報委員会と相談する必要があると考えており、もっと幅広く考えたい。たとえば、全代会にアピールするハッシュタグのようなものを作り、それに反応する形も考えられる。また、双方向とは別の論点だが、既存の SNS 以外を運用したいという声も確認している。ここはぜひ、広報委員会がやりたいことをこちらからも手伝いたいと考えている。

○豊田 春琉（教育学類）

関に質問する。タスクの分散という話があったが、専門的な業務が多かったり、全代会に割けるリソースが人によって違ったりする中で、それをどうやって進めるのか疑問がある。タスクの多さやその分散は大きな課題なので、他の 2 名にも意見を伺いたい。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

おっしゃるとおりで、分割すればよいという問題ではない。分割すれば、その分マネジメントすべき量も増える。一方で、適切なところにタスクを分散することは必要なので、それは従来どおり行うとして、私は加えて「適正化」を申し上げた。適正化とは、本来そのタスクを負うべきところが適正に負うということである。たとえば現在の広報委員会は、Campus を作る前提のグループ分になっていると思うが、今は SNS やホームページの運営も課題になっており、本来は SNS 担当が負うべきところに担当が存在しないという状況がある。そうしたところを改善したい。正直なところ、私は広報に詳しくはないので、まずは広報委員会の方々が感じている課題を聞いて、一緒に考えていきたい。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

タスクの分割とは、個々の構成員が無理のない範囲で活動を行えるようタスクを割り振ることだと考えている。そのため、まずは各委員会に出るなどして個々の構成員と会話し、全代会に割けるリソースや各人のスキル・能力を把握することから始める。そのうえで適したタスクを割り振っていく。私は「すべきところ」に割り振るよりも「できるところ」に割り振るべきだと考えている。理想は「すべきところ」に割り振ることだが、現実には「すべきこと」を「できるところ」に割り振るのが最もうまくいくと考えるので、誰ができるのかを把握するためにも、構成員と対話してい

きたい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

私は基本的に、委員会全体のタスクをどうするかを話し合うのがよいと考えている。それは委員長連絡会がメインになると考えている。各委員会の特筆すべきタスクや専門分野は委員長が一番分かっているはずなので、その中での割り振りは委員長にお願いするのが分かりやすい。一方、特定の委員会に収まらない、全代会全体に関わるタスクや、どの委員会が担当するかという割り振りについては、私たち議長団を通じて、どの委員会が担うのがよいかを対話しながら決めていければ、より専門性を生かした対応ができると考えている。

○栗原 さくら（地球学類）

3名に質問する。各候補ともSNSの利用拡大などに言及があり、広報委員会に求めるものが多いように見受けられる。課題の解決に向けて広報委員会とどのように連携するのか、また広報委員会のあり方として考えることがあれば教えてほしい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

広報委員会に求めるというよりは、全代会全体の課題が広報に偏って見えているのだと思う。どのようなやり方がよいかは、全代会全体、特に委員長連絡会や、広報委員会・総務委員会と協力する形になると思う。どの範囲まで動けるかというキャパシティの問題や、教職員がどこまで公開を認めているかという点も大きいので、その中で探っていきたい。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

先ほどの回答と重なるが、こちらから「こうしてほしい」というものはあるし、それは伝えていくつもりである。ただ、最前線で広報に関わっているのは広報委員会なので、広報委員会がやりたいこと・改善したいことに我々が寄り添う、という方針で連携していきたい。あり方については、各委員会ともやりたいことができるのが一番大事だと思うので、広報委員会がやりたいことをできる、そういう形で存在してほしいと考えている。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

私が広報委員会に求める姿は、大学の広報だけでなく「全代会の広報」を行うということである。

全大会がこういう組織で、こういうことをしているのだということをもっと広報してほしい。連携の仕方としては、私は月曜日が比較的空いているので、毎週の広報委員会のミーティングに私も赴き、広報委員会自体がどのような姿を目指したいのかを把握したい。そのうえで、広報委員会が思い描く理想と、他の委員会や議長団が広報に期待していることをすり合わせていくことを、委員長連絡会などで行っていききたい。

○栗原 さくら（地球学類）

続けて質問する。自身以外の候補の強みを教えてほしい。加えて、自身が当選した場合に、各候補とどのような点で補い合い、高め合えるかというビジョンも伺いたい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

まず藤井さんについて。全大会がメインではない方をどれだけ引き上げられるか、という点が藤井さんのよいところだと思う。補い合うところでは、委員会でお試し期間を設けたり、説明会で体験できる機会を設けたりできれば、より良いと考える。次に龍田さんについて。「対話」という点が非常によいと思う。頼るということについては、対話できる姿勢がないと何も始まらないので、その対話をより広げ、頼ってもらえる全大会につなげていければと思う。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

関さんについては、言わずもがな3年生で、この3人の中でも経験が一番ある。特に生活環境委員会出身で、宿舍周りの情勢が変わっている今、その知見がある人が相談相手にいるのは大変心強い。龍田さんについては、2年生の中でも全大会に多くの時間を費やしてきた方であり、同時に2年生であることは委員長陣と近く、若い視点を持っているということが強みだと思う。私がお二人と一緒に頑張るとなれば、私は人柄で勝負したい。先週、綱木さんが「副議長には中を向いた活動をしてほしい」と話していたとおり、構成員一人ひとりに寄り添って話ができる、下級生と上級生のパイプになれるような人間になりたいと考えている。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

関候補の強みは、藤井候補も述べたとおり、他の候補と違い生活環境委員会出身であることだと思う。大学の生活環境に関わる問題解決や、大学との交渉、外とのやりとりを行ってきた経験を生かしてほしい。構成員の声を議長団に届けるという公約も掲げていたので、私とともに構成員一人

ひとりの声を議長団に反映させていきたい。藤井候補の強みは、本当に優しく寄り添ってくれることだと思う。私がつらい時にも親身に寄り添ってくれた。一人ひとりに寄り添うという藤井候補の公約に沿って、私と一緒に構成員一人ひとりの意見をつなぎ、共有していけたらと思う。

○廣田 千恵（芸術専門学群）

3 点質問する。まず 1 点目。副議長候補 3 名が重視している点として、全学生への全代会の周知と、構成員同士が交流し活発に活動するという内部充実の 2 点が分かった。広報や内部の充実は活動を充実させるための手段だと考える。将来的にこの 2 点が実現できたとして、全代会の活動を学生へ発信していく具体的な成果としては、どのようなことを考えているか。理由も合わせて教えてほしい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

私が考える具体的な成果は、構成員個々人のタスクをポートフォリオとして全代会の外や教職員からも可視化できるようにすることである。理由は、それが全代会のモチベーションの大きな要素になるからである。個々人のタスクが終わったときに「私はこういうことができた」と発信でき、「どういうことをやっているのか」と問われたときに答えられれば、組織全体にとってプラスになり、個々人にとっても参加の意義が大きく高まると考えている。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

成果というのは、発信する具体的な全代会がやったことではなくて、発信することによって期待できる成果という意味であっているか。

○廣田 千恵（芸術専門学群）

補足する。私が伺いたいのは具体的な成果なので、活動の内容について詳しい事柄を一点教えていただきたい。関さんの場合はポートフォリオとして公開する活動として何を周知できるのか、という点である。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

全代会として発信していく成果は、その時々で変わると思うが、今の情勢でいえば、たとえば宿舍の値上げに関する交渉が今ここまで進んだ、という過程を伝えられるのが、我々が今何をしてい

て、どこまで学生に還元できているかが分かりやすくなると思う。現時点ではそれだと考える。今後、新しい事象があればそれを発信していくのがよい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

活動としては、どこまで進んだか、その過程や進展が主になると思う。ただ、過程や交渉の部分は教職員側に関わることが多く、外部や SNS・ホームページまで公開できない部分も多い。そのため、特に私が公約に挙げたクラ代や全代会構成員に向けた周知を主に行えればよいと考えている。そうすれば、自分のところでのポートフォリオというものにもなり、公開できる範囲ともすり合った形になると考えている。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

私が成果として挙げるのは 3 点である。1 点目は教育生活環境調査の対応である。全代会が学生のための組織である以上、調査に寄せられた意見を解決した、あるいは検討しているということを随時発信していくのは、全代会に求められていることだと考える。2 点目は、BRIDGE や夢を語る会、特別委員会などの活動の広報である。これは、受け身の組織ではなく、自分たちから学生のためになることをしている積極的な組織であると示すためである。3 点目は、普段の委員会活動の広報である。他の委員会に所属する構成員が他委員会の活動を知るためであり、また、まだ全代会に入っていない学生や未来の新生入生に対して、全代会がつらいだけでなく楽しい組織であると感じ、興味を持ってもらうためである。

○廣田 千恵（芸術専門学群）

2 点目の質問に移る。3 名が長期的なビジョンとして、龍田は構成員の意識変革、関は頼られる全代会、藤井はより身近な全代会を目指すと説明した。しかし、副議長の任期は 1 年間と限られている。副議長となった後、その短い時間の中で、まず何を最優先で進めたいか。理由も合わせて教えてほしい。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

私は公約で 3 つやりたいことを掲げたが、基本的にできることからやっていきたい。ただ、この 1 年で最低限これだけは、というのは、いずれかの下地づくりである。3 人の課題感がかなり一致していたことから分かるとおり、全代会には共有された課題が存在している。今後の委員長陣や

議長団も同じように改善したいと考えるのは自然なので、私の代でできることはやってしまいたいが、難しければ、せめて改善のフローやインフラ、すなわちマニュアルの整備や、グループ分けの下地を「ここまでやった」という形で残していきたい。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

私がこの 1 年で大事にするのは、まず対話をする雰囲気をつくることである。私が副議長を辞めた後、全代会からいなくなった後でも、理想やみんなの目的を一つにし、明確に共有していく雰囲気が残るように、その空気づくりを大切にする。これは私の 1 年だけでは達成が難しいので、この思いを引き継いでくれる人を一人でも多く増やすということをしていく。そのために、構成員一人ひとりと向き合って対話したい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

私が最優先で進めたいのは、教職員との連携である。ここの下地が揃っていなければ、意見があっても活動を伸ばせない。特に内部に向けたものは、ほかにやりたいと考える構成員がより改善できる可能性があるが、外部については、副学長が全代会との連携に興味を示している現状があるため、副学長が残っているうちに進め、定例化してしまったほうがよい。定例化すれば、やる気の有無に関係なく進められる。学外の担当者はこちらで操作できるものではなく、いまの状況はある種チャンスなので、そのチャンスを逃さず進められることが最も優先度が高いと考えている。

○廣田 千恵（芸術専門学群）

抽象的な質問になってしまったので補足する。最優先で進めたい事象として、たとえば「生活環境委員会で宿舍の値上げの進捗を周知する」といったように、どの委員会のどのプロジェクトを最優先で進めたいか、簡潔に教えてほしい。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

やはり生活環境委員会の宿舍についてだと思う。学生生活に直結しており、値上げ措置の阻止とまではいなくても、「ここまで交渉した」というお知らせがあるだけで学生の気分はかなり違う。私自身も去年まで一の矢学生宿舍に住んでおり、値上げの流れを見て不安が出た。同じ学生は多いと思うので、まずは全代会として「ここまでやった」ということをきちんと出していき、そのために交渉を進め、情報開示をしていくことを大事にしたい。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

私個人としては、各委員会のやりたいことを優先したいので、何を最優先にするかは一つに定まっていらないが、全代会がやるべきこととしては、やはり広報だと考える。宿舍の問題は大きいですが、それは生活環境委員会や、私以外の副議長が進めてくださると考えているので、私はより全代会の内部や、全代会の活動のためになることに優先的に取り組みたい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

私は生活環境委員会に所属していたこともあり、やはり宿舍に関係することだと思う。値上げの延期の期間は最大 1 年で、昨年度の活動の中でも時間が残っていないと感じた。議長団としても交渉に関わる部分があると思うので、生活環境委員会出身という経歴を生かしてサポートできればと考えている。あくまでも実施主体は生活環境委員会であるという点は前提としている。

○廣田 千恵（芸術専門学群）

3 点目の質問に移る。昨年度の議長団も、議長団選挙でそれぞれのビジョンを持っていたと思う。3 名が昨年度目指していたことと、その成果をどのように捉えているか。また、それをどのように継承するか。課題を挙げて批判的に継承し方向転換を図るのでも、肯定的に継承するのでもよいので、具体的に教えてほしい。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

昨年度議長団の公約は、実は私のものとかかなり近い。意識したわけではないが、本会議の軽量化は吉川が考えていたし、「居場所としての全代会」を挙げた方も、「構成員・全代会を見通す目」という公約を考えていた方もいた。私は昨年、一構成員として議長団の方向性に賛同して活動してきたので、基本的には継承したい。成果としては、特に本会議の軽量化はかなり成功している。今回の議長団選挙がイレギュラーなだけで、他の本会議は必要最低限の質問と時間で完結していた。逆に、目立った進歩がなかったかもしれないと思うのは教育生活環境調査で、ここは具体的なことを今申し上げる用意がないが、関係委員会と協力して改善していけたらと思う。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

吉川さんの「本会議のスムーズな運営」には私も賛成で、本会議の日程をあらかじめ伝える施策

は引き継ぎたい。吉川さんがもう一つ挙げた「モチベーションのアップ」については、吉川さんは本会議のスムーズな運営やタスク分散など、モチベーションを下げる外的要因をなくす方法で達成しようとしていたが、私はそもそもの目標をつくる、モチベーションそのものを対話の中で作るといった、内的な要因をつくることで達成したい。松本さんが決選投票で話していた「コンテンツの充実」については、広報委員会と連携して新しいコンテンツの創作を図りたい。坂入さんの公約「一人ひとりに寄り添う」については、昨年はご自身の学業の影響もあり達成できていなかったのではないかと感じている。そこで、議長団の他のメンバーとタスクを分散し、私自身が各委員会や一人ひとりの構成員に寄り添える環境づくりを意識していきたい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

本会議の簡略化はとても大成功だったと思うので継承していきたいと考える。公約として挙げているのは、ポートフォリオとしてというところがある。全体のモチベーションを高める点では、たとえば次回の本会議や TWINS 等の連絡で、この本会議によってどのような成果が得られたかを示すことができれば、全代会への参加意欲も高まり、学類等代表ならではの本会議議員としての意義をより生かせると考えている。全議長団のビジョンを継承し、その上に補う形で実施できればと考えている。

○廣田 千恵（芸術専門学群）

私からの 3 点の質問は以上である。不明瞭な部分もあったが、丁寧に回答いただき感謝する。

○櫻田 翔（情報科学類）

3 名全員に 3 点質問する。1 点目、委員長連絡会について、問題点と考えることがあれば伺いたい。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

現状の委員長連絡会は、1 つの共通したテーマがなく、各委員会がやってきたこと・やりたいことを話しているだけのようになり、感じられる。そのため、委員長連絡会ごとに 1 つの共通テーマや目標を設定して話し合う、あるいは 1 つの問題意識を明確にしたうえで各委員会の連絡や、やりたいことを対話する、そうした場をつくっていきたい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

委員長連絡会は、その名のとおり、各委員会の取り組みを説明し、全代会全体として決定すべき事項や本会議にける必要があることを議長団と相談する場だと認識している。その中で、委員長連絡会に参加していない者に対しても、決定したことは可能な限り共有できればよいと考える。月に 1 回など範囲を区切って、委員長連絡会で決定したことがあれば、Teams や本会議の委員長報告で紹介できればと考えている。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

委員長連絡会がそもそも何なのか分かっていない方が、ここにもかなり多くいると思う。委員長連絡会は各委員会の委員長が集まって課題を共有する場だが、このように何をやっているか分からないものの 1 つがこの委員長連絡会ではないか。そのため、1 年生でも 2 年生でもよいので、委員長連絡会に気軽に来て、何をやっているのか見られるような仕組みをつくりたい。

○櫻田 翔（情報科学類）

続いて、主に関への質問だが、他の 2 名も意見があれば願います。関は生活環境委員会にいたと思うが、昨年度、教育生活環境調査への対応があまりアクティブに動いていなかったように感じた。なぜそうなったか、副議長を目指す立場として考えがあれば伺いたい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

生活環境委員会で活動していた立場から述べる。特に教育生活環境調査については、生活環境の部分があまりアクティブになっていなかったと正直感じている。その原因は、属人化してしまっていた面が大きいと考える。副議長としての改善策としては、基本的に委員会のサポートが副議長の職務だと考えている。現在、三浦蒼大の生活環境委員会によって属人化を排する改革が進められているので、私は副議長としてそれをサポートする形にしたい。その中で、他の委員会での共有や、委員会内で決められない決定事項が出た際に確実にサポートできる体制・準備づくりを、議長団として進めていければと考えている。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

昨年度の生活環境委員会がどうだったかを私は把握できていないが、聞く限りでは、教育生活環境委員会に寄せられた意見に大きく 2 種類あるためだと思う。前者は大学との協議や対応をかなり

待たねばならない問題、後者はそもそも大学に上げたりホームページで取り上げたりする必要のない問題である。前者は大学を待つために対応が遅れ、後者はよくある質問集のようなものへ誘導するだけになっていた、と教育環境委員会から聞いた。そのため、まず大学と協議していく過程をできるだけ発信したい。また、よくある質問に送られるような意見にも真摯に対応し、ホームページに載せるなどしたい。ここは広報委員会の活発化とも関わるので、広報委員会・各環境委員会・総務委員会の情報部門と連携して、具体的な形を決めていきたい。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

ほとんど言われてしまったが、龍田さんの言うとおりでと思う。そのうえで、私は生活環境という分野にあまり知見がなく、具体的な話ができる材料もないので、実際に課題を 1 番分かっている委員会の方々と話したうえで考えていきたい。

○櫻田 翔（情報科学類）

最後にもう 1 点。総務委員長としての立場でも伺いたい、今年度・昨年度ともに本会議の出席率があまりよくなく、本日もスタートが遅れた。3 名のうち 2 名が副議長になった際、本会議の出席率を上げるためにしようとしていることがあれば教えてほしい。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

基本的には吉川さんが昨年行ってきたことを踏襲する。1 番取り組みたいのは、本会議の予定を先にお知らせすることである。私自身、これによってバイトや学業の予定を空けることができ、毎回出席できた。追加の方針は現状定まっていないが、一人ひとりの構成員との対話を通じてモチベーションを高めていきたいと考えており、それが出席率の増加にもつながればと考えている。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

現議長団などによって本会議は相当最適化されていると考えている。私は出席率を上げるために、本会議の中というより、本会議に出席することで組織としてどのようなメリットがあるかをより周知できればと考えている。具体的には、Teams での連絡や本会議の冒頭、委員会報告のタイミングで、これまでの本会議でどのような進展が得られたか、すなわち参加することのメリットを周知し、出席する理由づくりにつなげ、モチベーションを上げられればと考えている。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

基本的には昨年度のものを踏襲して問題ないと考えている。昨年度で本会議はかなり軽量化されたが、加えて私ができるとすれば、意見聴取会の活用だと思う。意見聴取会もかなりきれいな形になっているが、どこに質問・回答があるか分かりにくかった記憶があるので、そのあたりのユーザーインターフェースを改善していきたい。

○吉川 柊（令和7年度議長）

以上で質疑応答を終える。

○三浦 蒼大（人文学類）

再質問として端的に伺いたい。宿舎に対して、全代会としてどういう立場で対応するのか。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

私としては、宿舎の問題について、全代会は学生の立場に立つ組織として、学生にとって最も良い形を目指したい。私個人としては、人件費が上がっていることや老朽化は事実であり、値上げという部分にはある程度納得もある。しかし今回のような突然の値上げの告知は、学生のことを考えたものとは言えなかった。まずは学生組織として、もっと学生の意見に耳を傾けるよう、大学と協議していく中でその姿勢を見せていきたい。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

私としては、議長団ないし全代会の構成員として、学生側の意見も、学生部側の意見も両方分かるところがある。なので、双方の合意形成を図ることが全代会として最も注力すべき部分であり、全代会だからこそできる強みだと考えている。全代会の強みは、一般学生が窓口ではアクセスできない部署のトップや副学長と議論できることである。一般学生ではアクセスできない範囲まで意見を届けられるのが強みであり、それを伸ばす施策をとっていきたい。宿舎については時間が短いので、双方の合意形成に加え、法的な問題がどのような結果であれ解決されるよう、働きかけを進めていきたい。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

全代会は、学生の代表でありながら、大学当局とのカウンターパートとなる存在である。つまり、一般の学生団体では到底できない情報交換やそれなりの力を持っている。そのため、全代会は中立の立場で大学とも交渉を続けたいし、学生に対しても「ここまで決まった」という情報を出せるものは前に出していきたい。そういう存在でありたい。

○三浦 蒼大（人文学類）

本日、「個別傾聴」が1回あったが、宿舎について「全代会は学生生活課の味方なんですか」という質問が出た。そうしたことに端的に一言で説明できる言葉が、今のところ用意できていないので、用意してもらえるようお願いしたい。以上である。

○吉川 柊（令和7年度議長）

各副議長候補に、改めて自分がどういう方針でやっていきたいかを1分で演説してもらう。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

副議長候補の龍田です。私が公約として掲げますのは、「あなたと理想をつくっていく」ということです。この理想とは、大学・全代会のあるべき姿や、皆さんが日々の活動を行ううえでの目標と考えてください。こうした理想を持って活動している人は現在もいますが、その理想はみんなの間で共有されておらず、バラバラな状態だと私は感じております。そこで、みんなの理想への矢印を一つにしていくことを、私は行っていきます。矢印を一つにすれば、全代会全体として大学や学生にどう関わるべきか、他の委員会との共同作業をどう進めるかがまとまりやすくなり、より活動しやすくなります。また、構成員一人ひとりにとっても、日々の活動の目標が明確に見えることで、活動の意義を感じやすくなると考えております。皆さん、私と一緒に理想をつくっていきませんか。どうぞよろしくお願いいたします。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

関智亮です。本日はお付き合いいただき、ありがとうございます。私が進めたいのは、やはり「頼られる全代会」です。教職員にとっては、学生の意見が分からないときにとりあえず相談してみよう、と思える存在になりたい。そのために、各委員会と副学長との交流を強めます。学生に対しては、自分のタスクを言語化・可視化することで、全代会全体でこういう取り組みがあるのだと知ってもらい、やってみようと思える駆け込み先にしたい。構成員にとっては、自分が行ったタス

クがポートフォリオとして活用できるようにしたいと考えております。クラス代表者に対しては、各委員会の取り組みをクラス代表者に届けることで、全代会に頼っていいんだという雰囲気をつくっていきます。頼られる全代会になることで、この組織に所属してよかったと、今後を通じて感じてもらえるような組織づくりを進めていきます。どうか私に一票をお願いいたします。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

藤井です。何度も申し上げてまいりましたが、私が実現したいのは 1 つ、「一人ひとりに寄り添う」です。一人ひとりに寄り添う全代会をつくり、そのために、私自身が皆さん一人ひとりに寄り添う副議長になります。もしご賛同いただけましたら、どうか一票をお願いいたします。以上です。

○吉川 柊（令和 7 年度議長）

投票に移る。対面の方は手元の投票用紙に記入を、オンラインの方はフォームに記入をお願いします。投票にあたっては、人文学類の龍田が副議長候補であるため、その次席の人文学類・三浦が零票確認を行ってから投票を開始する。

開票の結果は、龍田候補 13 票、関候補 11 票、藤井候補 29 票となった。

いずれの候補も当選に必要な過半数に達しなかったため、得票数上位 2 名による決選投票を行う。決選投票はスライドを用いて行う。3 分経過でベルを 1 回、4 分経過でベルを 2 回鳴らし、2 回鳴った時点で強制終了とする。決選投票後は質疑応答を行わず、そのまま投票に移る。決選投票用紙は、これまでの「○」記入ではなく、候補者名を記名する形とする。

○藤井 新之助（副議長候補・国際総合学類）

改めまして、国際総合学類 2 年の藤井です。大変長引いており申し訳ございません。もうしばしお付き合いください。決選投票にあたり演説させていただきます。私のビジョンは改めて「一人ひとりに寄り添う」です。一人ひとりに寄り添う全代会、そしてそれを実現するために、構成員一人ひとりに寄り添う副議長になりたいと申し上げてまいりました。先週、「全代会は何をしているのかよく分からない」という話をしましたが、これを言語化すると、全代会は学生生活を支える裏方であると考えております。裏方ゆえに表に出ることは少なく、しかし裏方すぎて知られていないのが現状です。知られていなければ、学生は頼ろうと思ってくれませんし、印象も先行しがちです。構成員の側も、知られていないのでやる気が出ず、やりたいことも見つけにくく、見つかってもし

うすればよいか分からない。このままでは一人ひとりに寄り添える全代会はつくれません。そこで、先週お示しした3つの公約に取り組みます。そして、皆さんに「したい」を見つけてほしい、その「したい」を支えたい。これは、先ほどの質疑でも申し上げた、広報委員会をはじめ各委員会のやりたいことに寄り添いたいということです。私のビジョンは「一人ひとりに寄り添う」です。どうか賛同いただけましたら、一票をよろしくお願いします。以上です。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

改めまして、龍田です。前回、公約を分かりやすく示せませんでしたので、もう一度示します。「あなたと理想をつくっていく」です。皆さんの描く理想は現状バラバラですので、あなたと一緒に、みんなの矢印を一つにしていく。これを公約としてやっていきます。理想をつくり、矢印を一つにするために必要なことは、私は全部やっていきます。各委員会に出向いて一人ひとりと対話することはもちろん、対話の環境をつくるために、さまざまなイベントの開催で交流の機会を増やしたり、意見箱を設置したりして、私が直接行けないときでも、いつでも意見を募集できるようにします。みんなの矢印を一つにしていくことは、なかなか困難を極める作業ですが、私が全代会で顔が広く、いろいろな人と関わること、そして、理想の大学・理想の全代会を絶対につくりたいという強い思いから、その第一歩を踏み出せるのは私しかいないと確信しております。私と、私たちと、あなたで、共に理想の大学・全代会をつくっていきませんか。よろしくお願いいたします。

○吉川 栞（令和7年度議長）

決選投票を行う。投票用紙に記名のうえ投票してほしい。名字のみでも有効票とする。

開票の結果は、龍田候補 17 票、藤井候補 35 票となった。過半数を占めた藤井候補を当選人とし、副議長として選出する。続いて、龍田・関による決選投票に移る。

○龍田 和志（副議長候補・人文学類）

再び龍田でございます。ここで、私が掲げる「あなたと理想をつくっていく」について、もう少しお話しします。ここで掲げた理想とは、決して私や議長団の理想ではございません。私がつくっていきたいのは、あなたが思い描く理想、あなたが考えた理想、そしてみんなが同じように語れる理想であり、その全代会をつくっていきたいと考えております。そのために、私は皆さんと対話を重ねていきたいと考えております。本当に私が伝えたいのは、あなたと一緒に、あなたの理想を全

代会みんなの理想にしていきたいということです。そうすれば、より良い全代会・より良い大学が
つくれますし、皆さんにとっても全代会での活動がより有意義で楽しいものになると、私は確信し
ております。誰かの理想が私や議長団の理想と違うからといって、見捨てるようなことは絶対にい
たしません。皆さんの理想を汲み取り、誰一人取り残されない理想をつくるまで、私は諦めずに皆
さんと対話し続けます。どうか、私の「理想をつくっていききたい」という考えに賛同してくださる
方は、私に一票をよろしく願います。以上です。

○関 智亮（副議長候補・知識情報・図書館学類）

関です。私のビジョンは「頼られる全代会」です。全代会とは、マイナスをゼロにしていく組織
だと思っています。他の学生団体が 0 をプラスにしていく活動だとすれば、全代会はマイナスをゼ
ロに近づける組織で、やることをやってもマイナスは変わらないと否定されがちな組織です。そん
な中で、全代会の強みを、皆さんがモチベーションとして維持できるようにしたいと考えておりま
す。全代会の強みは、大学の上層部と直接やりとりできること、これは実は全代会にしかできない
ことです。そこを強く押していきたいというのが私の理想です。この頼られる全代会を、全方面に
うまく届けたい。教職員には「学生の意見を聞こう」と思ってもらえる、とりあえずここに行けば
分かる存在に。学生には、とりあえず駆け込み寺としてあげてもらえる窓口に。クラ代のところは、
解決できないことの相談先にしたいというのが主なところ。私は 1 年間活動してきましたが、
その中で「全代会としてやっていく意味がよく分からない」と言われたこともあります。だからこ
そ、自分のタスクをより広いムーブメントにしていく、できたことをどんどん発信してポートフォ
リオにしていくことが大切だと考えています。半年経っても残ってくださる皆さんが、参加してよ
かったと思える全代会にしていきたい。どうか、よろしく願います。以上です。

○吉川 椋（令和 7 年度議長）

決選投票を行う。

開票の結果は、龍田 22 票、関 27 票、白票 1 となった。過半数を占めた関候補を当選人とし、副
議長として選出する。

○吉川 椋（令和 7 年度議長）

以上で副議長選挙、ならびに議長団選挙を終える。これにて本会議を閉会する。

委員会報告

○櫻田 翔（総務委員会）

前回、軽く役割を決めた。議長選挙関係の短報は、あとはチェックしてアップするだけである。また、合同掃除を他の委員会と行うので、後ほど連絡する。総務委員でこの中にいる者は、今週の食事の希望があれば伝えてほしい。

○吉満 律稀（総務委員会情報部門）

先日は esa 講習会への参加に感謝する。パスワードの設定について 6 月中に決めたいと考えている。

○藤井 新之助（学内行事委員会）

学園祭の実行計画書の朱入れが始まっており、一次の改良を終えた。これから第二稿・第三稿の朱入れを進め、6 月の本会議で一次実計を提出したいと考えている。

○豊田 春琉（調査委員会）

先週の委員会には多くの参加があり、嬉しかった。委員会内に生環担当・教環担当を設けたので、ぜひ調査委員会も頼ってほしい。生活環境委員会が出しているアンケートを調査委員会でも展開していくので、各学類への共有をお願いしたい。

○廣田 千恵（教育環境委員会）

現在、BRIDGE という授業評価メディアの配布を、学内に設置された全代会ラックで行っている。本日の質疑でも話題に上がった教育生活環境調査は、学生の意見を幅広く恒常的に集められる貴重な手段である。ウェブ等で成果を周知することに加え、回答が反映されていると学生が実感できる丁寧な対応を行い、信頼を積み重ねるサイクルを繰り返すことで、より納得感のある教育生活環境調査を目指したい。

○三浦 蒼大（生活環境委員会）

連絡が 2 点ある。1 点目、先ほど一般チャンネルに流した、個別対話（宿舎に関する対話）のアンケートの配布を各学類の LINE 等で共有してほしい。2 点目、本日学生部・副学長と会ったところ、アンケートの回答が少ないと指摘があった。ここにいる方々も学生の 1 人なので、宿舎に関する意見があればぜひ入れてほしい。意見を出さないことは、大学や学生部に「好きなようにやってください」と言っているようなものなので、ご協力をお願いしたい。

○近藤 哲弘（広報委員会）

宿舎祭の記事を作成しようとしており、取材先の決定と役割分担、Adobe Creative Cloud の使用について話し合った。

○廣田 千恵（国際特別委員会）

国際特別委員会は、留学生向け情報を掲載した冊子「Guide to Campus Life」を制作中である。冊子の詳細は次回以降にお伝えできればと思うので、気になる方はぜひ話しかけてほしい。

○犬飼 晶惟（新入生歓迎特別委員会）

今年度の反省や来年度の担当決めなどを進めていく予定である。

○原田 晃（情報処理推進特別委員会）

新歓関連についてはそろそろ終了のアナウンスを行う予定で、学生団体プラットフォームを進めていきたい。BRIDGE についても進めていく。

○綱木 映法（令和 8 年度議長）

次回以降の本会議の日程を連絡するので、手帳やスマートフォンのカレンダーに入れてほしい。第 2 回本会議は 6 月 10 日水曜日 18 時 30 分から、第 1 回意見聴取会は 6 月 24 日水曜日 18 時 30 分から、第 3 回本会議は 7 月 1 日水曜日 18 時 30 分から行う。場所は未定だが、3A 棟のいずれかの教室になる見込みである。テスト等で忙しい時期と思うが、予定を空けてほしい。あわせて、研修会でも話があったとおり、SNS の発信には十分気を付けてほしい。全代会としてであれ、全代会の名称を出さない場合であれ、一個人・一学生として情報発信には十分注意してほしい。

○吉川 栞（令和 7 年度議長）

以上で全て終了とする。

散会

以上 総務委員会作成